



# 小澤洋介、三戸素子、P. ヤング友の会ニュース

## 2002年6月18日発行 No.34

3ヶ月ぶりの友の会ニュース第34号をお届けします。この間、フィリップさんも来日しサンクト・フローリアン三重奏団や、三戸素子ヴァイオリンリサイタル、そしてモーツァルト後期弦楽四重奏曲全曲演奏会(全3回)と、息もつかせぬコンサートの連続でした。その模様を会員の外谷千春さんと本野義雄さんからのお便りでご紹介します。

### 室内楽は春の香り

友の会会員 外谷千春

3月24日の晩、青山1丁目駅を出ると、ハラハラと舞う白い物が...、あらこの時期に雪?! よく見ると、それは桜の花びらでした。東京ドイツ文化センターで「日本リヒャルト・シュトラウス協会」の例会、クライネス・コンツェルトハウスの演奏会という事で、ウキウキと出かけたのです。

R.シュトラウス「祝典行進曲」「弦楽四重奏曲」そしてピアノのラファエル・ゲーラさんが加わり「ピアノ四重奏曲」。アンコールは、シュトラウスがエジプト旅行をした時の「アラビアの踊り」、イタリア旅行の「小さな恋の歌」。快いリズムに、これらの曲は聴いている側には面白いけれど、譜面はきっと難しいのでは、と素朴な疑問を持ちました。帰り道、日々の疲れが不思議に消え去っているのに驚きました。

2週間後の4月6日、鎌倉円覚寺で第11回骨髄バンクチャリティーコンサートが開催されました。

ベートーヴェン、ハイドンのピアノ三重奏曲。チャイコフスキーが亡きルービンシュタイン捧げたという「偉大な芸術家の思い出に」は、フィリップさんのピアノソロがとても美しく、さらに三戸さんのヴァイオリン、小澤さんのチェロが

加わった時は、いっそう華やかになりました。新緑の北鎌倉、この日は鳥や草木も、サンクト・フローリアントリオの皆さんの演奏に、耳を傾けたことでしょう。

その余韻も冷めぬ、わずか八日後の14日、東京文化会館で、三戸さんとクリスティーナさんのヴァイオリン・リサイタルがありました。ピアノのクリスティーナさんはハンガリーからの久々の来日、深緑のドレスにブロンドの髪。三戸さんは牡丹色の天女の羽衣のようなドレスに長い黒髪で、立ってヴァイオリンを奏する姿は、より自由に感じられました。

モーツァルトの「ヴァイオリンソナタ」に、シューベルトの「幻想曲」では、当時の「シューベルティアード」(彼が仲間と音楽を楽しんでいたという)を想わせました。最後に、お二人は本場のバルトークを、その指で物語ってくれました。東西のお姫さま達のジョイントのようにきれいでした!

三つの室内楽は、春に咲く色鮮やかな花のように夢見心地にしてくれたのです。

### 最高にぜいたくな喜び

友の会会員 本野義雄

5月12日と20日、3回にわたるモーツァルト後期弦楽四重奏曲全曲演奏会は、これ迄のクライネス・コンツェルトハウスの活動の集大成といえる特筆すべきものでした。天才が心血を注いだこの10曲を通して聴くという、室内楽愛好者にとって誠に得難い、最高に贅沢な喜びを与えて下さった演奏者の皆さんに深く感謝します。

これほど質の高い、鮮烈な感銘を与える演奏会は、国内外を問わず稀だったのではないのでしょうか。不運にもこの機会を逃した方々には、残念でしたとしか申し上げようがありません。

よい演奏家を支えるためには、よい聴衆の存在が欠かせないと言われます。7月の演奏会には、ぜひ会場をそういう聴衆で満たしたいものです。

### モーツァルト後期弦楽四重奏曲全10曲連続演奏を終えて

小澤洋介、三戸素子

ザルツブルクで勉強し、演奏活動をしてみると、モーツァルトは特別な作曲家になります。

あまり大きくないオーストリアの地方都市は、一年中モーツァルト巡礼に訪れる世界各国の人々であふれ、モーツァルトの曲が演奏されない晩はないほどです。私達は日々音楽を浴び、モーツァルトの深みをのぞきながら過ごしました。

35才で夭逝したとはいえ、600余曲の作品を残したこの天才作曲家には、神童から20才位までのKV(ケツヒェル番号の略=モーツァルトの作品番号)1番から300番位まで、そして28才位までのKV500位まで、そして亡くなるまでのKV626レクイエムまでの、大きく分けて三つの時代があります。後期弦楽四重奏曲はKV387からKV590、26才から34才までの9年

間の結晶です。ザルツブルクではさまざまな音楽体験をとおり、その途方もない作品群をかいま見ました。それでもまとめて10曲取り組むという機会はありませんでした。

5年前から横浜イギリス館でこつこつ始め、この度ついに全曲通してみることができました。連続演奏するということは、あらためてモーツァルトの精緻で昇華された音楽に浸り、上質な音のみ取り組むという、幸せな瞬間の連続でした。弦楽四重奏は何しろ4人集まらないと演奏できません。同じメンバーで5年間やってこられたことに感謝し、ザルツブルク時代から今までに接したモーツァルトを愛する人々、そして今回の連続演奏会にいらして下さった方々へ、心より御礼申し上げます。

三井千恵子さんから「ハケ岳だより」が届いています。毎年10月にハケ岳で開催される「小澤洋介チェロの世界」ですが、今年も10月5日(土)に日程も決まったそうです。掲載が遅れ、すっかり初夏になってしまいましたが、ハケ岳の自然の息吹を伝えていただきます。

## ハケ岳だより

友の会会員 三井千恵子

3月になり日脚伸び、が実感できる日々、四方山は雪に被われながらも、間もなく春一面の前触れの今は霜がかかったのびやかなハケ岳の南麓。

そんなある日の午後、久しぶりに名古屋在住のO夫妻が来訪。毎年10月に開催している泉の会主宰の「小澤洋介チェロの世界」に毎回参加下さるメンバーさんであり、小澤洋介の絶大なファンなのだ。O氏は「僕の幼い日々は、ショパンの曲は味噌汁の匂い…。本当に大変でした。」と話されたのは、声楽のお母様、お姉様も妹さんも、ご親戚も音楽家であるという。そして又奥様のM子さんも何故か音楽の人…。

そんなO氏が長い交友時間の中で、20年以上も前から写真を撮り続けていたとは全く知らず、始めて聞かされ拝見した。

数枚の風景写真から、日頃の彼の知られざる内面を感じさせる心象の光と影の作品に驚きだった。

「小澤さんの音楽を聴いていると頭の中、心の中に自然の風景がイメージされて来ます。そうした演奏家は僕にとって至極稀であり、小澤さんの音楽と、友人でもあるリュート奏者の佐藤豊彦君がそんな存在です。音楽家(小澤さん)が我々聴き手に投げかけてくれた音楽に対し、心にイメージされた風景を自然の中に求めて写真の世界の中に想像する事が、聴き手の側から演奏家に返して応える…。僕の応え方です。」

と語るO氏だった。

暖かい日ざしの森の店のテーブルの上に、白い手袋をはめた手で、丁寧に一枚ずつ大きな写真が取り出されてくる。

それは今年のバツハの無伴奏チェロ組曲第4番からイメージされた風景の作品。

特に心に強く残ったサラバンドの色の世界は茶色に響いたという、「その色合いに出会うのに苦心しました。」と、天空にすっきりと向うダイナミックな樹氷、雪原の彼方まで続く動物の足跡に不思議なぬくもりが伝わる風景、雪原と紺碧の空とのコントラスト。茶色の世界は、今年の名古屋の大雪の日、公園の中で発見できたという作品。

それでもバツハの第4番の写真は未完成であり「あの音楽が、僕の体感の中にある間にイメージされている風景に出逢って完成させたい。」日頃のやんちゃは影をひそめ、含羞のまなざしで話す。一昨年に演奏されたコダーイの曲の写真は、既に演奏家に贈られたという。

今回持参されたその作品を拝見し、O氏の研ぎ澄まされた感性が小澤洋介チェロの世界と溶け合い、更にそれが凝縮して宝石の光のように想える。

暮れなずむ迄室内楽を聴くような会話が続いた。谷戸城の桜も少し早めに爛漫となりそうである。(3月18日)

## 7月28日、今度のクライネス・コンツェルトハウスは盛り沢山

バラエティに富んだプログラムが予定されているのが、今度のクライネス・コンツェルトハウス。他ではなかなか聴けない曲が登場します。

まずCDにもなっていない珍しい曲が、チェルニーの「協奏的大セレナーデ」です。ピアノの練習曲で有名なチェルニーですが、こんな曲も作っていたのか、とびつくりの室内楽です。ベートーヴェンによく似た華やかな曲だということです。

次が、本邦初演という西澤健一氏の「室内交響曲」。サンクト・フローリアン三重奏団も作品を委嘱している作曲家で、コンサートの譜めくりにも度々登場、「ああ、あの若者か。」と思われる方もおられると思います。昨秋のクライネス・コンツェルトハウスのメキシコ演奏旅行の際に初演され大好評だった「室内交響曲」が日本でも聴けます。洋介さん、素子さ

んイチ押し若手作曲家の作品にご期待下さい。

プログラムの最後は、やっぱり名曲のドヴォルザークの「ピアノ五重奏曲」で締めくくりです。たっぷりご馳走を聴いて帰りましょう。

新規会員を随時募集しております。知人、ご友人の方々に友の会をぜひご紹介下さい。

年会費 一口 1,000円

郵便振替口座 00260-1-13926

加入者名

「友の会 小澤洋介・三戸素子・フィリップ・ヤング」

新規入会ご希望の方はその旨お書添えの上直接年会費をお振込下さい。

## 今後の主なコンサートとスケジュール



### 7月28日(日) クライネス・コンツェルトハウスOp.13

チェルニー：協奏的大セレナーデ 作品126  
西澤健一：7人の奏者のための室内交響曲(日本初演)  
ドヴォルザーク：ピアノ五重奏曲 イ長調 作品81

出演：ヴァイオリン：三戸素子、山田耕司 / ヴィオラ：二宮隆行 / チェロ：小澤洋介  
クラリネット：山根公男 / ホルン：藤田乙比古 / ピアノ：ラファエル・ゲーラ  
東京文化会館 小ホール 2pm 開演 ¥4,000 ¥3,000  
問：クライネス・コンツェルトハウス事務局 TEL.042-945-6326

### 10月5日(土) 小澤洋介チェロの世界 in ハケ岳

バツハ無伴奏チェロの組曲 シリーズ その3

・西澤健一：無伴奏チェロソナタ(委嘱作品、初演)  
・バツハ：無伴奏チェロ組曲  
第1番 ト長調、第3番 八長調

会場：谷櫻酒造 蔵元ホール(ハケ岳山麓 大泉村)

問：友の会ハケ岳支部 三井千恵子 TEL.0551-38-0354

友の会割引有